

＜職員（博士人材）の活躍について＞

本学の職員としての基礎知識等を身につけながら、今まで培ってきた知見を生かし、分析・企画立案等、教育研究に関する支援管理業務を行う。

以下は募集区分毎の業務の一例。

①教育研究系技術職員

博士号を持ち、最新の研究手法などを研究者に提案できるなど、研究者と対等に協働できる高度な技術支援スキルを有する者を想定し、個々の専門知識を活かし、以下の業務を行う。

加工・開発群

- 研究者が望む実験装置の開発を行ったり、産学連携で企業との共同開発に携わる。
- 最新の加工技術指導（教員、技術職員問わず）を行う。
- 新材料の発現などの情報収集や実験を行う。

電子回路・測定・実験群

- 研究者の意向に沿った最適の実験、解析方法を提案する。
- 研究者の意向に沿って、学生の研究テーマをともに考え、教員に代わり指導する
- 最新の技術情報を提供し、科研費などにおける機器選定の助言を行う
- 海外からの研究者への様々なコンサルティング（利用施設、実験装置、分析装置、対応人材の照会など）業務。

分析・評価・観測群

- 研究者の意向に沿った最適の実験、分析、解析方法を提案する。
- 海外からの研究者への様々なコンサルティング（利用施設、実験装置、分析装置、対応人材の照会など）業務。
- 共用機器・施設の活用を前提とし、ワンストップでデータ提供する。

生物・生命科学群

- 研究者の意向に沿った最適の実験、分析、解析方法を提案する。
- 実験農場や実験施設の主体的管理を行う
- 生物実験に必要な実験動植物の育成管理の最新技術の提供
- 観測船や観測所での技術責任者

情報・ネットワーク群

- 高度情報基盤の構築や選定
- 人工知能の研究サポート
- DX化の主体的内製化

安全・保守管理群

- 安全関係の内規や法制の整備
- 安全に関する関係省庁の対応
- 全学の安全教育
- 法改正に対する対応

②施設系技術職員

- ・環境工学、エネルギー工学及び情報科学等の高度な専門知識を活かし、キャンパスのスマートエネルギーマネジメントシステム等の構築を行い、2040年カーボンニュートラル実現に係る業務を行う。
- ・災害科学等の高度な専門知識を活かし、災害時に必要となる高度な機能をもった防災拠点の構築等に係る業務を行う。
- ・歴史的建造物・環境の再生に係る高度な専門知識を活かし、大学内の歴史的建造物・環境を再生し、持続可能で魅力あるキャンパスづくりを行う。
- ・建築工学、情報科学等の高度な専門知識を活かし、膨大な施設情報の高度なデータ分析やスペースマネジメント等を実施し、保有資産の有効活用や維持管理費の縮減に係る業務を行う。

③事務職員

総務系（総長・プロボスト室）

- ・本学の経営に係る分析や企画立案・実施

研究推進系

- ・外部資金（特に大型）の採択支援に向けた各種企画・実施
- ・大学の研究力強化に資するオリジナルの研究支援の企画・実施
- ・文科省新規事業の把握・情報収集
- ・外部資金獲得実績の把握・分析
- ・組織的研究連携に伴う協定締結・推進等の業務全般
- ・研究に関する国際シンポジウムの企画・実施
- ・研究者や学生が起業を行う基となるシーズやアイデアの理解を活かし、スタートアップ創出の案件発掘に係る業務を行う。

情報系

- ・研究データ（論文のオープンアクセスデータ等）管理・分析